

## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月12日  
東

上場会社名 株式会社エクサウィザーズ 上場取引所  
コード番号 4259 URL <https://exawizards.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 春田 真  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート統括部長 (氏名) 前川 智明 (TEL) 03-6626-3602  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	7,137	24.7	△238	—	△252	—	△508	—
2024年3月期第3四半期	5,722	42.8	△528	—	△554	—	△788	—

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 △487百万円(—%) 2024年3月期第3四半期 △813百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	△6.18	—
2024年3月期第3四半期	△9.71	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	9,238	4,588	48.4
2024年3月期	9,931	4,983	49.3

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 4,469百万円 2024年3月期 4,892百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—		
2025年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	10,060	20.0	200	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

除外 1社(社名) 株式会社VisionWiz

詳細は、添付資料「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期3Q	85,750,400株	2024年3月期	85,121,600株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2025年3月期3Q	3,070,163株	2024年3月期	3,111,700株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2025年3月期3Q	82,343,807株	2024年3月期3Q	81,280,900株
------------	-------------	------------	-------------

(注) 期末自己株式数には、株式付与ESOP信託が保有する当社株式(2024年3月期456,800株、2025年3月期第3四半期645,263株)が含まれております。また、期中平均株式数を算定するにあたり、株式付与ESOP信託が保有する当社株式の期中平均株式数(2024年3月期第3四半期203,022株、2025年3月期第3四半期606,316株)を控除する自己株式数に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(継続企業の前提に関する注記)	14
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	14
(企業結合等関係)	15

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結累計期間の末日現在において判断したものです。

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「AIを用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する」とのミッションの下、以下の3つの事業を展開しています。

AIプロダクト事業	広範な顧客向けに、最小限の追加調整で即座に業務で活用可能なAIソフトウェアを提供し、社会課題の解決を目指す
AIプラットフォーム事業	大企業を中心として、顧客の経営課題解決を通じて、様々な業界の産業・社会課題を発見し、その革新の実現を目指す
その他サービス事業	連結子会社である株式会社スタジオアのSaaS商材やIT商材などの営業課題に人的リソースやAIプロダクトを提供する事業等を展開

## (経営成績)

売上高

当第3四半期連結累計期間における売上高は7,137百万円(前年同期比+24.7%)となりました。これは主に、AIプロダクト事業において、当社サービスの利用数が増加したことによるものです。

売上原価、売上総利益

当第3四半期連結累計期間における売上原価は3,177百万円(前年同期比+21.5%)となりました。これは主に、売上原価となる人件費等及びシステム利用料が増加したことによるものです。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上総利益は3,959百万円(前年同期比+27.4%)、売上総利益率は55.5%となりました。

販売費及び一般管理費、営業損益

当第3四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は4,198百万円(前年同期比+15.5%)となりました。これは主に、販管費となる人件費等及びシステム利用料が増加したことによるものです。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の営業損失は238百万円(前年同期は528百万円の営業損失)となりました。

営業外損益、経常損益

当第3四半期連結累計期間の営業外収益は8百万円となりました。営業外費用は21百万円となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経常損失は252百万円(前年同期は554百万円の経常損失)となりました。

特別損益、親会社株主に帰属する四半期純損益

当第3四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失は388百万円(前年同期は808百万円の税金等調整前四半期純損失)となりました。

特別利益として、71百万円計上しました。これは主に、2024年12月1日に連結子会社の株式会社VisionWiz(以下、「VisionWiz」)の株式100%を株式会社コドモン(以下、「コドモン」)に譲渡したことによるものです(添付資料「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」参照)。

特別損失として、207百万円計上しました。第2四半期連結会計期間において当社が保有する投資有価証券の一部について、帳簿価額に比べて実質価額が下落したことによる投資有価証券評価損を140百万円計上しました。また、当第3四半期連結会計期間において当社が保有するソフトウェア資産の一部が遊休資産となったため、減損損失を62百万円計上しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失は、508百万円(前年同期は788百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

## (セグメント業績)

AIプロダクト事業

当第3四半期連結累計期間においては、既存プロダクトの販売拡大に加え、AIプラットフォーム事業によって得られた知見をもとに、生成AI等の活用をはじめとしたサービス開発にも取り組んでまいりました。

DX AIプロダクト群では、企業のDX人材の発掘・育成のための「exaBase DXアセスメント&ラーニング」の導入社数が2024年12月時点で1,988社(282,119人)となり、引き続き増加しました。「exaBase 生成AI」は導入社数が2024年12月時点で742社(73,294人)を突破するなど、好調に推移しました。

ソーシャルAIプロダクト群では、「CareWiz トルト」のマーケティング活動が軌道に乗り、商談獲得が堅調に推移しました。

その中で、これらの需要に応えるための組織拡大に伴う人員増加や当社サービスの提供数増加により、売上原価及び販管費それぞれの人件費等及びシステム利用料が増加しました。加えて、売上原価では、プロダクトの開発に伴うソフトウェアの減価償却費が増加しました。

この結果、売上高は2,107百万円(前年同期比+120.5%)、売上総利益は1,489百万円(前年同期比+190.1%)、売上総利益率は70.7%、営業利益は237百万円(前年同期は258百万円の営業損失)となりました。

AIプラットフォーム事業

当第3四半期連結累計期間においては、引き続きAIプロジェクトによるイノベーション創出を多数の大手企業と取り組んでまいりました。また、AIプラットフォーム事業発のプロダクトとしてのexaBase ロープレやexaBase 面談要約、連結子会社である株式会社ExaMDにおける認知症向けプロダクトへの開発先行投資、exaBase Studioを中心とした案件ポートフォリオの組み換えなどを推進し、AIプラットフォーム事業のビジネスモデル変革に着手しました。それに伴い、システム開発案件への一時的なリソース増強を行い、人件費等やシステム利用料などのコストが増加しました。

この結果、売上高は3,929百万円(前年同期比+2.8%)、売上総利益は2,132百万円(前年同期比-0.6%)、売上総利益率は54.3%、営業利益は1,002百万円(前年同期比-9.2%)、売上高に占める長期継続顧客(注)売上の比率は68.0%となりました。

(注)AIプラットフォーム事業において、当社が4四半期以上連続で契約している顧客

その他サービス事業

当セグメントは、AIプロダクト事業及びAIプラットフォーム事業のモデルには現時点で該当しないサービス等から構成されます。前第1四半期連結会計期間に子会社化した株式会社スタジアムの事業・業績などが含まれます。なお、当社グループは株式会社スタジアムを前期の第2四半期連結会計期間から新規に連結しており、当連結会計年度より業績が通期寄与します。

当第3四半期連結累計期間においては、既存の営業代行事業に加え、AIによる電話品質の可視化・向上にむけた新規プロダクトであるDr.Telについて複数企業からの受注、また、大手企業での導入が始まるなど、Sales Techサービスを加速しました。

この結果、売上高は1,324百万円(前年同期比+40.0%)、売上総利益は558百万円(前年同期比+20.5%)、売上総利益率は42.2%、営業利益は60百万円(前年同期比+108.3%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は9,238百万円となり、前連結会計年度末に比べ693百万円減少しました。これは主に、現金及び預金が468百万円、売掛金及び契約資産が197百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は4,650百万円となり、前連結会計年度末に比べ297百万円減少しました。これは主に、未払金が232百万円、長期借入金が225百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は4,588百万円となり、前連結会計年度末に比べ395百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失508百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想については、2024年5月14日に開示した連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,489	3,020
売掛金及び契約資産	1,851	1,653
その他	178	415
流動資産合計	5,518	5,089
固定資産		
有形固定資産	320	305
無形固定資産		
のれん	894	783
顧客関連資産	1,746	1,639
ソフトウェア	903	1,045
その他	0	0
無形固定資産合計	3,544	3,468
投資その他の資産		
投資有価証券	181	40
その他	366	334
投資その他の資産合計	548	374
固定資産合計	4,413	4,149
資産合計	9,931	9,238
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	300	300
未払金	660	428
未払費用	460	474
未払法人税等	41	122
契約負債	131	165
賞与引当金	20	28
その他	192	229
流動負債合計	1,806	1,748
固定負債		
長期借入金	2,550	2,325
退職給付に係る負債	72	70
資産除去債務	75	76
繰延税金負債	443	429
固定負債合計	3,141	2,901
負債合計	4,948	4,650

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,401	2,436
資本剰余金	4,555	4,584
利益剰余金	△860	△1,369
自己株式	△1,203	△1,182
株主資本合計	4,892	4,469
新株予約権	38	44
非支配株主持分	52	73
純資産合計	4,983	4,588
負債純資産合計	9,931	9,238

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	5,722	7,137
売上原価	2,615	3,177
売上総利益	3,106	3,959
販売費及び一般管理費	3,635	4,198
営業損失(△)	△528	△238
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	0
為替差益	—	3
助成金収入	0	1
その他	2	3
営業外収益合計	3	8
営業外費用		
支払利息	20	21
為替差損	0	—
支払手数料	8	—
雑損失	—	0
営業外費用合計	29	21
経常損失(△)	△554	△252
特別利益		
固定資産売却益	0	0
関係会社株式売却益	—	70
その他	0	—
特別利益合計	0	71
特別損失		
固定資産除却損	0	3
減損損失	203	62
投資有価証券評価損	—	140
関係会社整理損	51	—
特別損失合計	255	207
税金等調整前四半期純損失(△)	△808	△388
法人税、住民税及び事業税	37	113
法人税等調整額	△33	△14
法人税等合計	4	99
四半期純損失(△)	△813	△487
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△24	20
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△788	△508

## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純損失(△)	△813	△487
四半期包括利益	△813	△487
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△788	△508
非支配株主に係る四半期包括利益	△24	20

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下、「2022年改正会計基準」)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下、「2022年改正適用指針」)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(株式付与ESOP信託)

当社は、当社及び当社子会社の従業員(以下、「対象従業員」)へ当社グループへの帰属意識の醸成と経営参画意識を持たせ、対象従業員の長期的な業績向上や株価上昇に対する意欲や士気の高揚、当社の企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして、株式付与ESOP信託(以下、「本制度」)を導入しております。

なお、2024年5月27日開催の取締役会において、本制度への追加拠出について決議しております。これに伴い、以下のとおり信託金を追加拠出し、当社株式を取得しております。

(1) 信託金追加拠出及び当社株式取得の概要

①信託の種類	特定単独運用の金銭信託以外の金銭の信託(他益信託)
②信託の目的	対象従業員に対するインセンティブの付与
③委託者	当社
④受託者	三菱UFJ信託銀行株式会社 (共同受託者 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
⑤受益者	対象従業員のうち受益者要件を充足する者
⑥信託管理人	当社と利害関係のない第三者(公認会計士)
⑦信託契約日	2023年9月1日
⑧信託の期間	2023年9月1日～2025年9月30日(予定)
⑨制度開始日	2023年9月5日
⑩議決権行使	受託者は受益者候補の意思を反映した信託管理人の指図に従い、 当社株式の議決権を行使します。
⑪取得株式の種類	当社普通株式
⑫追加株式取得資金	83百万円
⑬追加取得株式数	230,000株
⑭追加株式の取得日	2024年6月12日
⑮株式の取得方法	当社自己株式の第三者割当により取得

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末179百万円、456,800株、当第3四半期連結会計期間247百万円、645,263株であります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額(注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	AIプロダクト 事業	AIプラット フォーム事業	その他 サービス事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	955	3,820	945	5,722	—	5,722
外部顧客への売上高	955	3,820	945	5,722	—	5,722
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	955	3,820	945	5,722	—	5,722
セグメント利益又は損失 (△)	△258	1,103	28	873	△1,402	△528

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント共通経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

セグメントごとの固定資産減損損失の計上額は、「AIプロダクト事業」セグメントにおいて164百万円、「AIプラットフォーム事業」セグメントにおいて38百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他サービス事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に株式会社スタジアムの株式を取得し連結範囲に含めたことについて、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額として2,284百万円を計上しておりましたが、第2四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を857百万円に修正しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額(注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	AIプロダクト 事業	AIプラット フォーム事業	その他 サービス事業	計		
売上高						
顧客との契 約から生じ る収益	2,078	3,785	1,272	7,137	—	7,137
外部顧客へ の売上高	2,078	3,785	1,272	7,137	—	7,137
セグメント 間の内部売 上高 又は振替高	28	143	51	223	△223	—
計	2,107	3,929	1,324	7,360	△223	7,137
セグメント利 益又は損失 (△)	237	1,002	60	1,300	△1,538	△238

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント共通経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「AIプラットフォーム事業」セグメントにおいて、減損損失を62百万円計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(株主資本の金額の著しい変動)

(1) 自己株式の取得

当社は、2023年3月22日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式3,011,400株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が1,165百万円増加いたしました。

なお、当該決議に基づく自己株式の取得は、2023年8月17日をもって終了しております。

(2) 第三者割当による自己株式の処分

当社は、2023年8月21日開催の取締役会決議による「株式付与ESOP信託」導入に伴い、第三者割当により自己株式456,800株の処分を行っております。信託に残存する当社株式は自己株式として計上しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ3百万円増加しております。

(3) ストック・オプションの行使

ストック・オプションの行使による新株発行により資本金が48百万円、資本準備金が48百万円それぞれ増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,385百万円、資本剰余金が4,539百万円、自己株式が1,203百万円となっております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

(株主資本の金額の著しい変動)

## (1) 第三者割当による自己株式の処分

2024年5月27日開催の取締役会において、「株式付与ESOP信託」への追加拠出について決議しております。これに伴い、83百万円の信託金を追加拠出し、当社株式230,000株を取得しております。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ5百万円減少しております。

また、「株式付与ESOP信託」を通じて対象従業員に対して自己株式を給付したことにより、自己株式が15百万円減少しております。

## (2) ストック・オプションの行使

ストック・オプションの行使による新株発行により資本金が35百万円、資本準備金が35百万円それぞれ増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,436百万円、資本剰余金が4,584百万円、自己株式が1,182百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれん及び顧客関連資産を除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び顧客関連資産償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	363百万円	417百万円
のれんの償却額	86	110
顧客関連資産償却費	71	106

(企業結合等関係)

(子会社株式の譲渡)

当社は、2024年11月20日開催の取締役会において、VisionWizの株式100%をコードモンに譲渡することを決議し、同年12月1日付けで株式譲渡契約を締結、また同日に株式譲渡を完了しました。これに伴い、VisionWizを当社の連結の範囲から除外しております。

#### 1. 株式譲渡の概要

(1) 株式譲渡した子会社の名称及び事業の内容

名称 株式会社VisionWiz  
事業の内容 画像認識AIを活用したコンテンツ配信

(2) 株式譲渡先の名称

株式会社コードモン

(3) 株式譲渡の理由

当社は、お客様の生産性向上を推進するにあたり、自社の生産性向上も目指し2024年3月期より構造改革を進めてまいりました。VisionWizの事業は、今後更なる成長可能性を持つ一方で、より保育・教育業界を理解したうえでの開発や販路の拡大が必要であると考え、この度、VisionWizの株式を譲渡することを決定するに至りました。

譲渡先となるコードモンは、保育・教育施設向けICTサービス「コードモン」などを展開しており、子どもを取り巻く環境をより良くするための事業を手掛け、社会に貢献している企業です。コードモンは47都道府県約2万の保育施設に導入され、導入施設数No. 1の実績を持ちます(2024年10月1日時点)。こうした保育・教育業界への深い理解やこれまでのサービス導入において培った知見により、VisionWizの事業の成長をより加速させることが可能であると考え、同社への譲渡を決定いたしました。また、両社は、それぞれの強みを相互に補完することで、写真撮影・共有における保育・教育施設職員の業務の省力化と、保護者の利便性向上をさらに実現すると同時に、保育・教育業界への貢献を一層強化できるとの考えから、更なる連携の強化を検討してまいります。

(4) 株式譲渡日

2024年12月1日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金とする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 譲渡損益の金額

関係会社株式売却益（特別利益） 70百万円

(2) 譲渡した子会社に係る資産及び負債の適正な帳簿価額、並びにその主な内訳

流動資産 64百万円

資産合計 64百万円

流動負債 34百万円

負債合計 34百万円

(3) 会計処理

当該譲渡株式の連結上の帳簿価額と株式売却価額との差額を「関係会社株式売却益」として特別利益に計上しています。

3. セグメント情報の開示において当該子会社が含まれていた区分の名称

AIプロダクト事業

4. 当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている譲渡した子会社に係る損益の概算額

売上高 19百万円

営業損失 116百万円